

「南稜の私が伝えたい事」コーナー

（続）南稜校区内の神社・主祭神のプロフィール < その4 >

◇神功皇后(じんぐうこうごう) (記紀神話の女神)・・・船渡の「若宮八幡社」

第十四代 仲哀(ちゅうあい)天皇の皇后。和風諡号(わふうしごう)は、古事記では「息長帯比売命」、日本書紀では「気長足姫尊」、ともに「おきながたらしひめのみこと」と読む。執権在位期間は、西暦 201 年～269 年。



政権に反抗する熊襲(くまそ)(九州南部の人々) 征討軍事作戦行動中に急死(崩御 西暦 200 年)した「仲哀天皇」の後を継ぎ、朝鮮半島にも積極的に進出し、新羅、百済、高句麗の三国を制覇した。皇后の行動は神がかりで、すべて神託(お告げ)に因って征討作戦を駆使したと云われる。諡号に天皇だけにつけられる「尊(みこと)」が用いられていること、逝去の際にも「崩(ほう)」と記され、墓を「陵(みささぎ)」としていることなどから天皇と同格の扱いを受けていたことが窺える。

◇譽田別尊(ほむたわけのみこと) (第十五代 応神天皇) (八幡大神)

・・・大崎の「八幡社」、野依の「八幡社」



仲哀天皇の第四皇子で、母は神功皇后。天皇としての在位は西暦 270 年～310 年。八幡大菩薩を譽田別尊(応神天皇)に擬され、八幡信仰に結びついている。本源は九州の「宇佐八幡宮」。八幡信仰は、武家や寺院の守護神として崇められており、全国の神社数約 8 万社を信仰別に見ると、八幡信仰がダントツに多い。

投稿：ルポライター 野依のM・Y